

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②評価調査者研修修了番号

FALSE
神機構-82
神機構-813

③施設名等

名称：	児童養護施設 すまいる
施設長氏名：	小川 暁美
定員：	30名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	http://kanagawa-swc.com/smile/
【施設の概要】	
開設年月日	2014/9/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団
職員数 常勤職員：	52名
職員数 非常勤職員：	5名
有資格職員の名称（ア）	心理療法担当職員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（イ）	家庭支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（ウ）	里親支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	自立支援員、学習支援員
上記有資格職員の人数：	各1名
有資格職員の名称（オ）	被虐待児個別対応職員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	地域コーディネーター
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	5ユニット、ショートステイ1ユニット
施設設備の概要（イ）設備等：	プレイルーム、地域交流スペース、集会室、親子生活訓練室、
施設設備の概要（ウ）：	相談室、静養室、会議室、バルコニー
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p><基本理念></p> <p>児童一人ひとりが施設に住まい、地域社会の人々に見守られながら「地域社会の一員」として成長していくことを通して、ごく普通の人間として自己を肯定し人との相互的な関係を基礎とした安心・安全な「暮らし」を営めるよう援助します。そして児童一人ひとりの持つ「力」を信じ、その「力」を強化・育成していきます。</p> <p>1. 児童一人ひとりの心身の成長を支援し、児童の「いま」のありのままを受け止め、児童が自己を肯定できるよう暮らしをつくりあげていきます。</p> <p>2. 児童一人ひとりが人間としての尊厳を持つ存在であることに敬意を払い、児童自身の意思表示と他者との共同の暮らしへの「参加」を通じて児童一人ひとりの人権を擁護することに努めます。</p> <p>3. 児童一人ひとりが「ありのままの自分」で過ごせる養護、養育の場として、安全で安心な暮らしを児童とともに作りあげていきます。</p> <p>4. 児童一人ひとりが持つ「生活文化」や生活の中で持たざるを得ない「問題」に寄り添い、児童自身が判断し行動をすることを通じた課題の解決や課題の軽減を援助します。</p> <p>5. 施設に住まい、「地域社会の一員」として生活体験を重ねていくことを基礎として、児童一人ひとりが将来自分自身にもっと適切な「自立・自律した社会生活」を営めるよう援助します。</p> <p>6. すべての援助・支援を児童一人ひとりの「力」を信じ、その力がより発揮できるようなアプローチを通じて行い、児童一人ひとりが持つ問題解決できる「力」を強化・育成していきます。</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

○国の人員配置基準に加え、市の加算により、手厚い職員配置となっている。対子ども比がほぼ1対1で、子どもたちに十分時間をかけて関わることができている。子どもたちも安心して生活を送り、子どもたちには必ず職員が複数で関わっている。近くの小学校の校庭や体育館を開放してもらい、子どもたちが職員と一緒に運動をしたり、学習支援専門の職員が個別の学習計画を立てている。子どもの担当制はとらず、施設全体で、子どもたちを養育・支援している。
○リービングケア・アフターケア委員会を置いている。リービングケアとして、日常生活の中で卒園後の自立・自律に向けた支援や、地域の企業などの協力の下、さまざまな取り組みを行っている。これまでの卒園生は述べ10人くらいだが、卒園後のアフターケアも家庭支援専門相談員を中心に手厚く行い、月に1度は子どもたちに支援品を送り、常に連絡を取り合っており、卒園後の良好な関係作りに努めている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2021/5/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2021/11/8
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度

⑦総評

○すまいるは、保育園、児童養護施設、児童家庭支援センター、地域交流スペースの4つの機能を持つ「総合児童福祉施設あいせん」の中の児童養護施設である。開設にあたっては、児童養護施設での勤務経験がある職員がいなかったことから、市内の児童養護施設や小・中学校で事前に長期間研修し、子どもたちに適切な養育・支援を提供できるよう取り組んでいる。開設して7年が経過し、子どもたちとともに職員も成長しているとのことであった。
○「総合児童福祉施設あいせん」の3～5階が子どもたちの居住スペースで、5つのユニットに分かれて、子どもたちが生活を送っている。また、ショートステイのユニットを備える他、近隣で地域小規模児童養護施設ひまわりを運営している。
○月1回開催する「子ども会議」には、職員も参加して、子どもたちの意見を吸い上げている。子どもたちは、入浴の順番やテレビ鑑賞のルールなどを、自分たちで話し合っている。月2回ユニットごとに、子どもたちと相談して献立を決め、子どもと職員とで買物、調理を行い、食事作りを楽しんでいる。
○前身の「愛泉ホーム」の頃より、地域とのつながりが強い。地域の子どもの会が主催する夏祭りや秋の遠足、もちつき、町内対抗の運動会などに、子どもたちが積極的に参加して、地域と交流している。地域の行事には職員が付き添い、準備や片付けなどを手伝っている。小学生は、地域の少年サッカークラブや少年野球クラブにも参加している。
○月1回、職員会議やリーダー・サブリーダー会議を開催する他、ケースカンファレンスは児童相談所のケースワーカーも参加して、随時、開催している。また、生活委員会や行事委員会、広報委員会、リービングケア・アフターケア委員会を1ヶ月に1回開催して、養育・支援の質の向上に努めている。8月の終わりには、リービングケア・アフターケア委員会が、過去に退所した子どもへの支援を振り返る勉強会を開催している。
○子どもたちの生い立ちの整理は、日々の生活の中で、子どもの言葉や態度を丁寧に受け止めて関わり、子どもから自分の生い立ちや背景を知りたいと思う気持ちが出てきたときに、伝えるようにしている。専門職を交えたユニット会議、所長を交えた施設内カンファレンス、児童相談所のケースワーカーなどと相談しながら、慎重にだれがどのように伝えていくかを検討している。
○入所時から、子どもの思いを職員間で共有している。子どもの特性について、プラス面にも着目して、生活の中で気付いたことを、ユニット職員や専門職を含めた全職員、児童相談所のケースワーカーで共有している。子どもの状況をよく理解し、今のようなかたちで悩んでいるか、困っているかを、子どもと一緒に考えていく体制を整えている。
○常勤の心理士を配置し、月1回、子どもたちとの面接を行っている。また、課題のある子どもには、心理室やプレイルームにて、箱庭療法や遊戯療法で子どもの気持ちを聴き出したり、心理検査を行っている。結果は職員に報告し、心理面、生活面での支援につなげている。
○子どもたちの宿題は、職員が1対1で関わり、子どもたちは毎日の宿題を終わらせてから遊んでいる。学習支援員を常勤配置し、計画性を持って子どもたちの学習指導にあたっている。定期的な学習指導は、各個室や集会室などを使用している。また、中・高校生の試験前の勉強も、一人ひとりの進み具合を把握しながら支援している。希望する小学生は地域の公文式教室に通い、中学生は高校受験のため、ほとんどの子どもが塾に通っている。
○児童相談所と連携を取りながら、可能な限り保護者との関わりを持つようにしている。家庭支援専門相談員を常勤で配置し、子どもの受け入れ体制ができている保護者には、子どもから手紙を書いたり、児童相談所と相談しながら、面会や外出、宿泊などにつなげている。施設内の訓練室で面会や母親との宿泊体験などを行い、段階を経て、親子関係を再構築している。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

新型コロナウイルス感染拡大により、多くのご不便がある中受審させていただきありがとうございます。ヒアリングでは丁寧な聞き取りの中、評価していただきましたこと大変感謝しております。開所して7年が経過致しましたが、職員の育成もまだまだこれからですので今後も子どもたちの最善の利益のためよりよい支援に努めてまいりたいと思います。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b

<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設の理念や基本方針は、ホームページやパンフレットに掲載する他、施設内にも掲示して周知している。職員へは、入職時や新年度に、事業計画書を渡して、理解をすすめている。子どもたちや保護者には、入所時に「すまいるのしおり」にて、読み合わせを行っている。子どもたちには、日頃から、「児童のアイデンティティを求めて」の「勇気、冷静、知恵」を伝えているが、交流できる保護者は約半数であることから、子どもや保護者への周知は不足する部分があると捉えている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

現在はコロナ禍でオンラインでの開催になっているが、月1回、法人全体の「経営会議」に所長が参加して、施設経営をとりまく環境と事業の動向を把握、分析している。入手した情報は、月1回開催する職員会議や、平日毎日開催する「朝の打ち合わせ」の場で、所長から職員に報告している。施設の経営状況は法人全体で把握しており、現在、特に問題となる事柄はあがっていない。

② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	<input type="radio"/>

【コメント】

月1回、法人全体の「経営会議」に所長が参加して、施設経営をとりまく環境と事業の動向を把握、分析している。現在、当面する大きな経営課題はあがっていない。職員配置については、市から助成金が多く出て、対子ども比が、ほぼ1対1と手厚い配置となっている。その分、安定した人材の確保や、職員の質の向上が求められている。今年度採用職員の離職はなく、安定した運営につながっている。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
-----------------------------	-------------

①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

法人全体で、第4次総合経営計画を策定している。児童福祉事業として、子ども子育て支援制度への対応、人材の確保や育成などをあげている。中・長期的な計画は、計画通りすすまないことがあり、2ヶ所計画していた地域小規模児童養護施設は現在1ヶ所しか開設できていない。中・長期計画は、国の動向なども踏まえ、定期的に評価、見直しを行っている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

中・長期の計画をベースにして、単年度の事業計画を策定している。事業計画の中で重点事項をあげ、ユニットごとに、具体的な計画につなげている。各ユニットでは、年度末に、子ども一人ひとりの支援内容を振り返り、その中で計画を見直している。子ども一人ひとりの担当者は決めず、ユニット全体で子どもたちを養育・支援している。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

各会議の場や、年度末の職員との個別面接、日常の関わりなどから、職員の声を集約し、事業計画は、最終的には所長が作成している。作成した事業計画は、3月の法人の理事会に諮った後、4月の職員会議の場で、所長から職員に内容を説明し、周知している。状況に合わせ、内容の評価、見直しを行っている。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

入所時に保護者が同席する場合は、施設の取り組みなどを説明している。定期的な面会、交流のある保護者は、半数程度である。事業計画についての説明は特に行っておらず、施設での子どもの生活や成長の様子を伝えることが中心になっている。ユニットごとに、月1回、「子ども会議」を開催し、行事の予定などを伝えているが、事業計画そのものを説明する機会は設けていない。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

月1回、職員会議やリーダー・サブリーダー会議を開催する他、ケースカンファレンスは児童相談所のケースワーカーも参加して、随時、開催している。また、生活委員会や行事委員会、広報委員会、リービングケア・アフターケア委員会を1ヶ月に1回開催して、養育・支援の質の向上に努めている。平日の朝は、毎日、朝の打ち合わせを行い、各ユニットで昼の引継ぎを行っている。8月の終わりには、リービングケア・アフターケア委員会が、過去に退所した子どもへの支援を振り返る勉強会を開催している。日頃の支援の中で特に意識してはいないが、計画⇒実行⇒チェック⇒アクションのPDCAサイクルの取り組みが浸透している。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

事業計画や子どもの個別支援計画は、随時見直しを行っている。職員間で結果を共有し、必要に応じて計画の見直しを行っている。最近では、子どもへの呼称や食事のマナーなど、基本的な部分で、日々の職員の支援の視点がぶれたことがあり、職員会議の場で心得などを見直し、改善している。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

ホームページや業務分担表、緊急時のマニュアルなどの中で、所長の役割を示している。月1回開催する職員会議やリーダー・サブリーダー会議には所長が参加し、会議の冒頭で所長の考えを述べている。平日の朝開催される朝の打ち合わせにも所長が参加し、子どもたちの生活の状況を把握している。所長不在時は、管理課長や支援課長に権限を委譲するとともに、土日祝日や夜間帯は宿直のリーダーが責任を持って関わるよう体制を整えている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

全国児童養護施設協議会や県の施設長会に積極的に参加する他、インターネットでも情報入手し、遵守すべき法令などを理解するよう努めている。収集した情報は、職員会議の場で職員に周知することが多い。また、新任職員研修でも、遵守すべき法令などを、新任職員に示している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

期日は定めていないが、年1回、職員との面接を行い、職員の声を聴いている。定期的な面接の他、職員にはいつでも相談に対応することを伝えている。定期的な面接では、職員と一緒に1年間を振り返り、困っていることや来年度目指したいことなどを確認している。現在、職員とのコミュニケーションは密に取れていると感じている。子どもたちには、所長室を開放し、いつでも相談に来ることができること、気軽に遊びに来ることができることを伝えている。実際、直接、所長室を訪れる子どもも多い。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

法人と連携を取りながら、経営改善や業務の実行性を高めている。児童養護施設の職員の給与体系が低いことから、待遇改善に取り組んでいる。職員が働きやすい環境作りとしては、職場は「人」が対象なので、どうしても合う合わないの問題が出てくる。所長が中に入って、適正な人員配置となるよう取り組んでいる。

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="checkbox"/>
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

法人と連携を取りながら、人材確保などを行っている。求人は法人が窓口となり、面接に所長が入ることもあるが、通常は法人の人事担当が採用面接を行っている。各種加算職員の配置も、充分できていると感じている。数年前までは、新採用職員の定着率に問題があったが、今年度は新人職員も定着し、退職していく職員もなく、安定した運営につながっている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

法人と連携を取りながら、人事管理などを行っている。施設が期待する職員像は、明確に文書では示していないが、すべて100点満点を目指すのは無理なことから、自分のでばこを自己覚知できる職員、子どもと真剣に向き合うことができる職員を、所長として望んでいる。職員は4～5月に自己の目標を立て、年度末に面接を行っている。人事管理は異動や昇給の問題につながり、むしろ、職員がうまくいかなかった時の相談にどう対処できるか、職員がどうしていいかわからない時にどう対応するかが、重要と捉えている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員との個別面接を定期的を実施して、職員の心身の状況を確認している。職員にはできるだけ定時に退勤できるよう声をかけ、勤務シフトも、職員の休みの希望を取りながら作成している。有給休暇も、月に1回は取得できるよう、全体をチェックしている。職員には、メンタル面のアンケートも行い、精神的な面もチェックしている。職員が何でも話しやすい雰囲気作りを心がけている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ここ2年は、職員の目標設定面接に、思うように時間を取ることができなかったが、今年度は計画的に実施できている。現在、職員一人ひとりが個々の目標を達成できている。目標設定面接は時間もかかるので、今後はもう少し簡潔に行うことができるよう、工夫が必要であると捉えている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要なとされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

法人全体で研修計画を作成している。施設内研修は、各委員会や専門職が立案し、開催している。主任支援員を研修担当として、外部研修は管理者と相談しながら、派遣者を決めている。ここ2年はコロナ禍のため、外部研修への職員参加が少なかったが、オンラインによる研修も積極的に活用して、職員が養育・支援の質の向上に努めることができるよう取り組んでいる。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

市内の児童養護施設や乳児院とも横のつながりがあり、年3回、合同で研修会を開催して、職員が多く参加している。外部研修に参加した職員は復命して、「リアクションペーパー」に内容をまとめ、職員会議の場で研修報告を行っている。報告書はまとめ、いつでも職員が内容を閲覧できるようにしている。研修担当としては、職員がそれぞれスキルなどを自己覚知する中で、研修体制を作っていきたいと考えており、そのベースになるスーパービジョンの体制作りが必要と捉えている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	

【コメント】

児童支援課長と職員2名を担当者として、実習生の受け入れやオリエンテーションを行っている。コロナ禍の中ではあるが、社会福祉士や保育士の実習をできる限り受け入れている。現在、15校ほどの受け入れを行っている。職員も、実習生にしか見えない部分もあり、勉強の場、振り返りの場として関わっており、今後もコロナ対策を徹底して、積極的に実習生を受け入れていく予定である。ただし、養成校とのプログラム検討は実施できていない。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページに、事業報告書や決算報告書を掲載して、運営の透明性を確保するための情報公開を行っている。また、メールでの問い合わせにも積極的に応える他、広報紙「すまいる」を年2回発行して、施設の状況を伝えている。広報紙「すまいる」は、地域の自治会や民生委員・児童委員、保護者、学校関係、役所、関係機関などに広く配布している。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

法人と連携して、公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取り組みを行っている。業務分担当にて、ルールや職員の役割を明確にして、職員に明示している。また、外部の監査法人が、毎月、試算表を定期的にチェックして、運営状況を確認している。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	

【コメント】

地域の子ども会が主催する夏祭りや秋の遠足、もちつき、町内対抗の運動会などに、子どもたちが積極的に参加して、地域とのつながりを深めている。地域の行事には職員が付き添い、準備や片付けなどを手伝っている。小学生は、地域の少年サッカークラブや少年野球クラブにも参加している。子どもたちの学校の友だちの訪問が少ないため、環境作りが必要と捉えている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	

【コメント】

地域コーディネーターがボランティアの受け入れを担当しているが、コロナ禍で昨年度から受け入れが止まっている状態である。子どもたちの学習支援や英会話、ヘアカット、イベントの手伝いなどに、ボランティアが活動していたことから、コロナの状況を確認しながら、受け入れを再開したいと考えている。職員であると同関係が近すぎて、子どもたちの真剣さも違うので、学習ボランティアは、積極的に受け入れていく予定である。また、ピアノやその他特殊技能を提供できるボランティアの活動も望んでいる。ボランティアの受け入れは実施しているが、ボランティアに対する研修などは、これまで行っていない。

(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がいない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

地域の社会資源は、行政が作成した資料を活用している。地域の小・中学校や幼稚園、病院、警察署、町内会、子ども会とは、日頃より関係作りに努め、コロナ前は年1回施設の運営推進会議を実施している。児童相談所とは、必要時、連絡会が開けるようにしている。また、コロナ禍の前には、学校関係と連絡を取っていたので、情報交換の場を再開していきたい。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

地域コーディネーターが、要保護児童対策地域協議会に参加して、地域のニーズを把握している。ひとり親家庭や若い両親、専業主婦でも子育ての悩みを抱えている人、家庭内に相談する人がいない母親など、地域には様々なニーズがある。地域から求められることにすべて応えることはできていないが、でき得る限り対応するよう取り組んでいる。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

地域の福祉ニーズに対応して、ショートステイやデイスティの事業に取り組んでいる。1階の地域交流スペースで月1回、「子育てカフェ」を開催していたが、今後は内容を広げていきたいと考えている。地域には、自分から助けを求めることができない人や、子育てで悩んでいる母親もいることから、地域のネットワーク作りや、子育てで悩んでいる人に対し、アウトリーチ（こちらから出向いていく）していきたいと考えている。

III 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者
評価結果

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

基本方針に「尊厳に基づく安全・安心な暮らし」と「人権擁護」を掲げ、携帯サイズにまとめたものを職員が常に所持して、内容を確認している。子どもを尊重した養育・支援の浸透に向け、職員会議の場で、「子どもの権利ノート」の読み合わせを行っている。今年度は、職員研修に、「オンブズマンについて」をテーマに取り上げている。また、心理職に特化した研修ではあるが、県が月1回開催する「子どもの権利について」の研修にも参加している。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
---	-----------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="radio"/>

【コメント】

1階には、防犯カメラを設置している。また、子どもたちが居住する3～5階へのエレベータは、職員による開錠がない限り利用できないようにして、防犯に配慮した環境を整えている。小学生からは個室で生活し、自分の好みに合わせた生活の場となっている。浴室も他の人の目にふれないような設計で、幼児以外は、基本的に子どもが一人で入浴している。子どもたちには、入所時にプライバシーの配慮を説明しているが、保護者にはあえて伝えない場合もある。人の目に触れない場所は、職員の目が届かず、不適切な行為につながる可能性もあるため、日ごろから気配りするよう努めている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
<input type="checkbox"/>	理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設紹介のしおりは、子どもにもわかりやすいよう配慮し、「子ども用のしおり」を作成し、入所時に渡している。入所依頼があった場合は、児童相談所に出向き、施設のパンフレットで、生活の様子を説明している。見学希望者には、施設内を案内して、質問にも丁寧に応えている。子どもの入所は様々な事情があり、保護者への情報提供の仕方も、児童相談所と連携して対応している。前身の「愛泉ホーム」の頃より、地域住民・福祉関係者とのつながりが深く、継続して地域交流の場となっている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
<input type="checkbox"/>	子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所にあたっては、児童相談所の関わりにより、子どもたちの多くは、自らの状況を把握して入所している。入所後の養育・支援については、わかりやすく内容を説明しているが、入所に至る経緯は様々であり、子どもの中には、大人に言われたことをそのまま受け止めがちなこともあり、子どもとゆっくり一緒に考えていくようにしている。保護者への対応については、入所に至る諸事情から、施設からは直接の説明は行わない場合もある。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
<input type="checkbox"/>	養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>

施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。

【コメント】

退所の準備として、親子生活訓練室を活用し、一人暮らしの体験に取り組んでいる。退所後は、主・副の担当者が定期的に本人と連絡を取り合い、就労や生活の状況を把握するとともに、子どもたちの相談に応じている。また、施設行事の案内を送ったり、行政の助成を受け、誕生日や成人の日にはプレゼントを贈り、継続支援につなげている。現在、職員が作成したアフターケア用の計画書の見直しを行っている。家庭復帰については、児童相談所と連携しながら、まずは受け入れ先の家庭環境を整える支援を優先して行っている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

月1回開催する「子ども会議」には、職員も参加して、子どもたちの意見を吸い上げている。子どもたちは、入浴の順番やテレビ鑑賞のルールなどを、自分たちで話し合っている。月2回ユニットごとに、子どもたちと相談して献立を決め、子どもと職員とで買物、調理を行い、食事作りを楽しんでいる。個人の嗜好もあり、食事はマンツーマンで対応する場合もある。また、高校生になると、部活の仲間との急な約束などもあり、ルールを踏まえながら、個別に対応している。施設全体で対応すべき事柄は、ユニットの職員や専門職、管理職が参加して検討会を開催し、検討内容を記録して、全体で共有するようにしている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決責任者や苦情受付担当者、第三者委員を設置し、苦情解決の仕組みを施設内に貼り出し、誰でもわかるようにしている。施設玄関には「いけんばこ」を置き、小さな子どもでもわかるよう配慮している。子どもたちは無記名で「いけんばこ」を利用し、所長と課長が内容を確認している。「いけんばこ」の内容のうち、施設全体で対応が必要な事柄は、ユニットの責任者や専門職、管理職で協議し、しおりの変更が必要な場合は、すまいる生活委員会で内容を検討している。子どもの名前が記入してある場合は、個別にフィードバックし、無記名の相談に対しては、課長が各ユニットを回り、検討結果を説明している。対応の内容は記録しているが、公表するところまでには至っていない。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○

<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 相談しやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

入所時に「しおり」を用いて、相談方法を子どもたちに説明している。子どもたちには、ユニットの職員以外でも、誰にでも相談できることを伝えている。ユニット以外に、専用の相談室があるが、子どもたちは直接、所長室に相談に来ることもある。気軽に誰にでも相談できる環境を整えている。国基準よりも職員配置が厚いこともあり、日頃の養育・支援の場で、職員が余裕を持って、子どもたちの相談に対応できるよう心がけている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもからの相談は、相談室でゆっくりと話を傾聴している。状況に応じて、心理士がプレイルームでの子どもの様子を通して、気持ちを受け止めている。子どもたちの日々の様子は、ユニットの担当職員が状況を把握し、専門職と連携して対応している。幼児からの相談は、ユニット内で対応、解決することが多いが、子どもの希望に添って、他のユニットの職員が話を聴いている。施設全体で検討すべき意見などは、時間をかけて協議し、検討の途中経過も相談者に伝えている。相談内容は、職員全体で共有している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

すまいる生活委員会の中で、誤与薬(誤配)などのヒヤリハット事例を集約し、再発防止に取り組んでいる。また、防犯カメラを設置したり、居住階へのエレベータ使用を制限したりして、不審者の接触を防止する体制を整えている。ユニット内には、死角となるスペースもあり、子どもたちの安全な生活に向け、職員が注視している。現在、「子ども同士による暴力」について、対応マニュアルを作成している。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

管理職を責任者とした「感染対応マニュアル」を整備し、マスクの使用や手洗いの励行、検温、うがいなどの感染予防対策を徹底している。子どもがインフルエンザに罹患した場合は、親子生活訓練室にて対応して感染拡大の防止に努めているが、罹患者が増え対応しきれなくなった場合は、ユニット内の個室で対応している。感染症の予防や拡大防止に向け、施設全体でマニュアルに沿った行動がとれるようにしている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="radio"/>

【コメント】

災害時のマニュアルを整備し、災害の種類（地震や火災など）によって、安全な避難経路などを定めている。屋上には、太陽光パネルの設置や非常食を備蓄している。行政との無線による防災訓練も定期的に行っている。ただし、子どもたちの登下校時の災害発生に向けた訓練については、今後の課題である。また、夜間に災害が起きた場合、2歳児が生活しているユニットでは、宿直の職員一人が対応しなければいけないことがあり、現在、生活委員会で課題として取り上げ、改善策を検討中である。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所と相談しながら、子どもたち一人ひとりの自立支援計画書を作成している。自立支援計画書には、本人や保護者の意向を盛り込み、一人ひとりの自立に向けた短期・長期目標を定めている。職員間で内容の共有を行い、統一した養育・支援に取り組んでいる。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

定期的に見直しを行う他、日常の養育・支援の場で、気付いたこと、気になることなどを職員間で情報交換し、必要に応じて、協議、見直しを行っている。幼児の「トイレトレーニング」や「指しゃぶり」など、成長段階の変化は、定期的な見直しを待たず、早目に変化をキャッチして、タイムリーに養育・支援を見直している。他の年代の子どもたちについても、日々の生活の中で変化を早めにキャッチし、養育・支援の見直しにつなげている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

自立支援計画策定の担当者を置き、子どもたち一人ひとりにアセスメントを実施している。統一したアセスメントシートを使用し、2人の職員で1人の子どもを担当し、自立支援計画を策定する。児童相談所や専門職の意見を取り入れ、自立支援計画書を作成している。アセスメントにて抽出されたニーズは優先順位を付け、自立支援計画書に明記し、適切な養育・支援につなげている。評価結果や自立支援計画書の内容は、職員全体で内容を確認している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画書は、年度末に評価(再アセスメント)を行い、抽出されたニーズは優先順位を付けて自立支援計画書に記載し、次年度の養育・支援につなげている。年1回の見直しの他、10~11月には、中間評価を行っている。自立支援計画書には、中間評価の内容も記載し、子どもの成長の様子や新たな課題を職員間で共有している。日々の生活の様子で計画に変更が必要な時は、定期的な見直しにかかわらず、随時、養育・支援の見直しを検討する体制を整えている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○

<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

各ユニットにパソコンを置き、自立支援計画の他、日々子どもたちの様子を記録している。記録内容は、職員全員がパソコン内で確認でき、また、印刷した書面でも内容を確認している。日頃の養育・支援の場で気付いた子どもたちの情報は、マイナス面ばかりに着目するのではなく、プラス面も評価して内容を共有するよう心がけている。パソコンによる情報の共有だけでなく、口頭でも伝え合うようにしている。また、「記録の書き方」についての研修会を年1回開催し、職員間で統一した記録ができるよう取り組んでいる。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ユニット内のパソコンは、パスワードでロックして、セキュリティに配慮している。記録類の管理責任者を置き、文書類は事務所内の鍵のかかるロッカーで保管している。文書類の保管期間や破棄方法などは、個人情報保護規程を遵守して、実施している。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者評価結果	
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

権利擁護に関するマニュアルを整備し、職員規程の中にも、呼称や言葉使い、社会人としてのマナーなどを細かく記載し、月1回の職員会議で読み合わせを行っている。また、年1回、職員は「チェックリスト」を用いて、それぞれのケアの振り返りを行っている。職員が感情的になったり、権利侵害が起きないように、子どもへの対応は1対1では行わない体制をとっている。子どもたちに対して、特定の宗教を勧めることもない。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/>	子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子ども一人ひとりがかけがえない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちの入所時には、児童相談所のケースワーカーが「子どもの権利ノート」を子どもに手渡し、内容を説明している。日々の生活の中では、職員が「思ったこと、感じたことを言っていんだよ」と、子どもに伝えている。年1回、オンブズマンによる紙芝居などで、子どもたちが「権利」を理解できる機会を設けている。コロナ禍により、最近は行うことができないが、外部研修などで権利について学んでいる。子どもたちが自主的に意見が言え、思いを伝えられるよう支援している。子どもたちは職員だけでなく、直接「ねえ聞いてよ」と、所長に思いを伝えることもある。

(3) 生い立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

日々の生活の中で、子どもの言葉や態度を丁寧に受け止めて関わり、子どもから自分の生い立ちや背景を知りたいと思う気持ちが出てきたときに、伝えるようにしている。専門職を交えたユニット会議、所長を交えた施設内カンファレンス、児童相談所のケースワーカーなどと相談しながら、慎重にだれがどのように伝えていくかを検討している。子どもたち一人ひとりの状況に合わせ、取り組みの時期は異なっている。子どもが何を知りたいのか、どこまで情報を伝えるかなどを検討して伝えている。生い立ちの整理だけではなく、乳児期から小・中・高校までにお世話になった人や、関わった人との写真やメッセージを冊子にして、本人に渡している。卒園時に、お世話になった人々にお礼の挨拶に行き、成長を祝ってもらったことがあり、本人はたくさんの人に大切にされていたという実感を持って、社会に巣立っていったケースもある。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/>	体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的専断、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

不適切な関わりの防止に向け、就業規則の中の呼称の項目では、さん付けで呼ぶこと、あだ名などでは呼ばないこと、言葉使い、暴力の禁止などを定め、月1回の職員会議の場で、読み合わせをしている。また、不適切な関わりのないよう、子どもとの関わりは1対1では行わず、職員が複数で対応できるよう勤務シフトを組んでいる。また、若い職員が多いことから、子どもとの関係が友達関係にならないよう、先輩職員が指導している。玄関に意見箱を置き、子供の意見を聴き、所長が対応して、内容を職員へ報告している。意見箱には、「〇〇が食べたい」「〇〇へ行きたい」などの内容が多い。子どもたちの居室は、幼児以外は個室であるため、死角に配慮して、関わっている。第三者委員やオンブズマンも定期的に訪問し、子どもたちの意見を聴いている。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

月1回、各ユニットで「子ども会議」を開催し、困っていることややりたいこと、今話し合いたいことなどテーマを決めて、話し合いを行っている。建物の構造上、園庭がないため、3階のバルコニーを広くとって外遊びを行っているが、近くの小学校の校庭や体育館を開放してもらい、野球やサッカー、バスケットなどを行っている。「子ども会議」の中で、運動会をやりたいという意見が出て、職員のアドバイスを受けながら、企画や準備、進行、運営など、すべて子どもたちが行っている。現在はコロナ禍のため開催できていないが、子どもたちは運動会の再開を待ち望んでいる。また、ユニットの生活のルールについても、お風呂の順番などを話し合いで決めたり、自分たちでやりたいことを考えて生活している。リービングケアとして、金銭管理に取り組み、高校生になるとアルバイト代の預金通帳を自己管理している子どももいる。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

子どもの入所に際しては、児童相談所のケースワーカーと一緒に見学にきてもらい、ユニット内を見たり、どのように生活できるか説明している。入所を意思をケースワーカーが確認し、入所につなげている。入所に向け、職員への周知、ユニットの受け入れの準備、他の子どもへの説明、入所日のウェルカムパーティーの準備などを行っている。環境の変化に配慮して、皆で暖かく迎え入れ、あらかじめ聞いておいた好きな食べ物を準備して、不安を少しでも軽減できるよう工夫している。特に低年齢児には、同じ職員が常に付き添えるよう勤務シフトを組み、高年齢児にはその子どものレベルに合わせた支援ができるよう、職員が当たり前と思うことを押し付けずに支援していくよう配慮している。子どもが安心した生活を送ることができることを最優先して、迎え入れている。家庭復帰や卒園後などの支援は、アフターケアとして委員会を設け、関わりを継続している。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○

<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設の方針に「地域社会の一員としての生活体験と自立・自律した生活」をあげている。リービングケア・アフターケア委員会を設置し、日常生活においても、退所後を意識して、自立に向けたリービングケアと退所後のアフターケアに力を入れている。日々の生活の中では、自分のことは自分でできる支援を行っている。委員会では、高校生対象に自由参加で金銭シュミレーションを行い、食材の買い出しや食事作り、食事会などを実施している。委員会が地域に働きかけ、一般企業での職業体験の場を設け、施設内の宿泊訓練室を使って一人暮らし体験を行っている。開設して7年目で、卒園児は10人程度だが、アフターケアとして、専門職が心配のある子どもに電話連絡をし、子どもからかかってくる電話での相談に対応している。すべての子どもに、あらかじめ何が欲しいかを確認し、月1回、家族からの対応と同じように、子どもたちの希望する物を送るよう取り組んでいる。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかりと受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所時から、子どもの思いを職員間で共有している。子どもの特性について、生活の中で気付いたことを、ユニット職員や専門職を含めた全職員、児童相談所のケースワーカーで共有している。子どもの状況をよく理解し、今のようなことで悩んでいるか、困っているかを、子どもと一緒に考えていく体制を整えている。新しい若い職員に対して、子どもが強い感情を出すこともあるが、1対1では対応しないという原則の元、子どもの言動に対して、先輩職員や心理士なども入り、子どもと一緒に考えている。特に子どもに対して、アンケートなどは行っていない。

②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

食事は、ユニットごとにみなで揃って食べている。入所前の偏った食事、見たことのない献立・食材などで食べられない、量が少ないなど、子どもの状況を確認しながら、無理のないよう支援している。部活やアルバイトで夕食が遅くなる子どもがいる場合は、子どもの帰宅を待って、職員と一緒に食べるようにしている。コロナ前は開所祝いやハロウィン、クリスマス会、お正月、卒業・進級祝いなど、ホールで全員が集まりご馳走を囲んで楽しんでいたが、今は実施できていない。夜間は、幼児は布団を敷いて職員と一緒に寝ているので、夜間目が覚めても安心してまた眠りにつくことができるようにしている。また小学生でも、寝付くまで絵本を読んで就寝支援をしている子どももいる。夜尿などのある子どもに対しても、プライバシーに配慮して、後始末を行っている。低年齢児には特に愛着関係の構築を意識し、すべての子どもに、どんなことでもしっかり目を向け、しっかりほめながら養育している。

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○

【コメント】

低年齢児には、自分で食べられるようになること、洋服を着られるようになることなど、職員と一緒にやって見せ、やりたい気持ちが出てきたときには待つ姿勢を大事にしている。自分でできた時には、しっかりほめている。小学生は、さまざまな失敗も大事な体験ととらえ、次にどうするかを一緒に考えている。中学生は、地域の野球やサッカーチームに入り、社会生活を体験している。練習や遠征などがある場合は、職員が必ず同行して、子どもの活躍を見守り応援している。高校生になると、町内の運動会やお祭り、餅つきなどへ参加し、手伝いを行い、職員だけでなく地域の方たちも一緒に見守りや支援を行っている。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

低年齢児には、興味、関心のあるおもちゃを用意している。また、集団に入る訓練として、総合施設内の保育園の同年代の子どもたちと交流している。幼稚園には、職員と一緒に歩いて通っている。小・中学校の担任の先生とは、子どもの情報を交換し、コロナ禍前には、学校教員と合同で子どもの権利に関する研修を開催している。学習面では、希望する小学生は地域の公文式学習室に、中学生のほとんどの子どもは塾に通っている。学習支援員を置き、一人ひとりの子どもの学習計画を立てている。宿題は自分の部屋で行っているが、試験前は集会室を利用し、学習支援員が関わっている。ピアノや水泳などの習い事をしている子どももいる。コロナ禍前は、学習ボランティアや退所後の支援機関による進路学習会を受けていたが、現在は受け入れを中止している。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○

<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束と一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

日常生活を通し、自分のことは自分でできるよう、食事のマナーや掃除、洗濯などの基本的習慣の習得を支援している。ネグレクト(育児放棄)などで、清潔な衣類を着たことがない、掃除がされた部屋での心地よさを体験していない子どもも多いので、時間をかけながら、清潔にすることの快適さを体験してもらうよう関わっている。施設での生活に慣れてくると、自分の衣類は自分で洗濯したり、職員が階段の掃除をしているのを見て、手伝いをしてくれるようになってくる。また、ユニット内で、職員の電話の対応を子どもたちに見せ、日々の生活の中で、職員が子どもたちの模範になるよう意識して行動している。職員は常にみられている存在であることを、全職員が意識して支援にあたっている。低年齢児は「健康チェックシート」に毎日記録し、子どもの健康管理を行っている。

(2) 食生活

① A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気でするように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

「総合児童福祉施設あいせん」内の保育園の厨房で、すまいるの食事を作っている。月1回、給食会議を開催して、朝夕の食事、子どもたちのお弁当、子どもたちの希望メニューなどについて、話し合いを行っている。朝夕はユニットでみな揃って楽しく食事することを基本としているが、部活やアルバイトなどで遅くなる子どもは、職員と一緒にテーブルに向い、一人で食べることがないように配慮している。月2回の夕食は、ユニット食として、子どもたちの希望を聴き、食材の買い出しや調理、片付けまでを、みなで楽しく行っている。そのうちの1回は、職員が季節の旬のものを食卓に載せ楽しんでいる。偏食の子どももがいたが、今はほとんど食べるようになっていく。また、県内に田んぼを購入し、お米作りを楽しんでいる。ご飯を食べるときには、楽しい米作りの話などで盛り上がっている。外食の機会は多く、フルコースの食事の招待を受けたこともある。

(3) 衣生活

① A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

寄付を受けた衣類や年間の被服費により、子どもたちの衣類は充足している。小学校高学年になると、おしゃれへの関心が深まり、自分の好みの洋服を職員や友達と購入して楽しんでいる。卒業式や七五三、成人式などでは、施設で用意したものや貸衣装などを着用し、式に参加している。また、高校3年生になると社会人となるため、スーツを新調している。節目節目の生活を大事にしている。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

「総合児童福祉施設あいせん」の1階は、吹き抜けで大きなステンドグラスがあり、明るい空間を作っている。1階には、児童家庭支援センター（地域の子育て支援）、地域交流スペース（地域のサークルが活用）、プレイルーム（心理士がおもちゃなどでの遊戯療法を行う）、集会室（学習室・卓球練習）がある。3階から5階が、すまいるの居住空間になっている。6ユニット（ショートステイを含む）に分かれ、低年齢児以外は全室個室でプライバシーを確保している。各自の部屋は、好きなポスターやぬいぐるみなどで、自分らしい空間を作っている。訪問調査日はコロナの緊急事態宣言のため、リモート授業の子どもが多く、部屋で授業を受けていた。リビングやキッチン、浴室などの共有部分は明るく清潔に保たれ、写真や子どもたちの絵などを飾り、楽しい雰囲気を醸し出している。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ぜんそく等の持病のある子どもがいるため、定期的を受診している。特に服薬はなく、入所してから大きな発作は起こしていない。全員の子どもの健康診断は、年1回、嘱託医に依頼している。また年1回、学校での健康診断も定期的を受けている。幼児は毎月1回、健康診断を受けている。精神科を受診する子どもがおり、薬は職員が管理し、目の前で服用している。体調不良の子ども（発熱が多い）が出た場合は、すぐに嘱託医を受診している。受診は職員が付き添い、結果をユニットに報告している。受診に職員が付き添って外に出ても、いつでも他の職員がフォローできる体制を整えている。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

性の課題については、特に慎重に対応し、子ども一人ひとりの背景を踏まえたうえで対応している。低年齢児には、紙芝居を職員が作成し、プライベートゾーンには触らないこと、見せないこと、見ないことなど、わかりやすく教えている。中学生以上は、何かトラブルが生じたときには市の保健師も関わり、自立支援計画の中で計画的に関わることがある。初潮を迎える子どもへは、マニュアルを作成し、女性職員がマニュアルに沿って対応している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

① A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

行動上に問題のある子どもは、様々なつらい背景を持ち、悩みを抱えているケースが多い。リストカットや、頭を壁に打ち付けるなどの自傷行為がみられる子ども、職員に暴力を振るおうとする子どもなどさまざまであるが、そのような悩みを抱えて行動に出る子どもは多くなってきている。不適切な行動が起こった場合は、他の子どもの安全を考え、複数の職員で対応して気持ちをまずは落ち着かせ、要因が何かをゆっくり確認している。児童相談所のケースワーカーや施設の心理士が心の葛藤を聴き出し、振り返りを行い、感情のコントロールができるよう支援している。日常生活の中で、課題のある子どもには、日ごろからよく話を聴く体制を整えている。

② A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子ども同士の大きな暴力などはない、また、学力の低い子ども、特別支援学級の子どもなどに対する差別的行為も見られない。子ども同士での小さな喧嘩はあるが、人権を傷つけたりする大きなものはない。日常生活の中では、子どもだけの空間を作らないこと、死角に配慮して職員配置を行うことに心がけ、複数の職員が子どもたちに関わる体制を整えている。また、児童相談所のケースワーカーと連絡を密に取り、情報を共有している。学校の担任とも、密に情報交換を行っている。

(8) 心理的ケア

① A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

常勤の心理士を配置し、月1回、子どもたちとの面接を行っている。また、課題のある子どもには、心理室やプレイルームにて、箱庭療法や遊戯療法で子どもの気持ちを聴き出したり、心理検査を行っている。結果は職員に報告し、心理面、生活面での支援につなげている。1階の児童家庭支援センターにも心理士がおり、すまいるの子どもたちの様子を把握し、関わりを持っている。心理士は各ユニットの会議に参加し、子どもたちの生活の状況を把握して、心理面のアドバイスをを行っている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

① A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもたちの宿題は、職員が1対1で関わり、子どもたちは毎日の宿題を終わらせてから遊んでいる。学習支援員を常勤配置し、計画性を持って子どもたちの学習指導にあたっている。定期的な学習指導は、各個室や集会室などを使用している。また、中・高校生の試験前の勉強も、一人ひとりの進み具合を把握しながら支援している。希望する小学生は地域の公文式教室に通い、中学生は高校受験のため、ほとんどの子どもが塾に通っている。コロナ禍前は、学習ボランティアの支援も受けていた。職員配置が厚いことから、子どもたちの学習内容をよく把握し、指導に当たることができている。教職員の資格を持っている職員もいる。

② A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 就労者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

リービングケアに力を入れ、中学生くらいから、将来を見据えた生活ができるよう支援している。高校生になると、大学や専門学校などの費用がいくらかかるか、独立した時の費用はいくらかかるか、また自分で何をやっていかなければいけないかなど、メリット、デメリットを見極めながら、一緒に考えている。リービングケア・アフターケア委員会では、奨学金の紹介や学校の紹介などの情報を提供しながら、その子どもにとって一番良い進路を一緒に考えている。今年は高校卒業予定の子どもは1人で、就職を希望していることから企業に働きかけている。これまでの卒園生の中で、専門学校に進学した子どもが1人いる。現在措置延長で施設から専門学校に通っている子どももいる。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	

【コメント】

特別支援学校では職業実習があるが、普通学校では職業体験の場はない。地域の企業から職場体験の受け入れはあるが、現在はコロナ禍で実施していない。高校生は近くのスーパーや飲食店などでアルバイトをして、社会体験や職業体験をしている。子どもたちには、就職に役立つよう、運転免許などの資格取得を勧めている。漢検や英検の資格取得に向け、子どもたちは頑張っている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長とともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

児童相談所と連携を取りながら、可能な限り保護者との関わりを持つようにしている。家庭支援専門相談員を常勤で配置し、保護者との相談体制を整えている。虐待についての振り返りができていない保護者など、子どもとの交流が難しい場合もあるが、子どもの受け入れ体制ができていない保護者には、子どもから手紙を書いたり、児童相談所と相談しながら、面会や外出、宿泊などにつなげている。施設内の訓練室で面会や母親との宿泊体験などを行い、段階を経て、親子関係を再構築できるよう関わっている。面会に訪れる保護者は数人いるが、面会のない子どもへの対応は、ユニット職員と外出をしたりして配慮している。また、里親支援専門相談員を常勤で配置し、「ふるさと里親制度」を活用して、夏休みなどに家庭体験ができるよう支援している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員が中心になり、児童相談所のケースワーカーと連携し、家族や子どもの状況を確認しながら、家庭復帰に向けて働きかけている。親子の交流がスムーズに進むよう、面会や外出、親子生活訓練室での生活体験を経て、家庭に復帰できるよう支援している。家庭に戻ってからも、家庭支援専門相談員が中心となりその後の生活の様子を確認している。